



5月17日 炭素循環で未来を創る！ オープンイノベーションのための異分野交流2024
気鋭の研究開発者/スタートアップが神楽坂に集結！
(金) 12:30 | 東京都新宿区神楽坂1-3 | By 公益財団法人 名古屋産業科学研究所 中部TLO



ベンチャー/スタートアップ スタートアップ イノベーション サステナブル テクノロジー 産学連携

日時
2024/05/17 (金)
12:30 - 17:00 JST
カレンダーに追加

チケット
招待講演・出演・主催者 (登録フォーム)
一般参加者 (登録フォーム)

場所
東京理科大学 神楽坂キャンパス (1号館17F講堂/大会議室)
東京都新宿区神楽坂1-3 日本
地図を見る

イベント概要:

炭素循環 (カーボンサイクル) に取り組む気鋭の研究開発者/スタートアップが集い、アクセラレーターや協業を志向するステークホルダーと議論を深めるオープンイノベーションイベントです。
開催日: 2024年5月17日 (金) 12:30-17:00 (12:00~受付開始)
開催場所: 東京理科大学 神楽坂キャンパス 1号館17階 記念講堂・大会議室
参加費: 無料

- 一般社団法人 カーボンリサイクルファンド: 一般社団法人カーボンリサイクルファンドは、地球温暖化問題とエネルギーアクセス改善の同時解決を目指し、カーボンリサイクルに係る研究助成や広報活動を推進しカーボンリサイクルイノベーションの創出を
東京理科大学 研究推進機構 総合研究院 カーボンリユース研究拠点: 東京理科大学ではカーボンリユース研究拠点を設立し、本学教員が持っているサイエンス、テクノロジーを駆使し、さらには外部機関との連携・共同研究により、人工光合成などのカーボ
公益財団法人 名古屋産業科学研究所 中部TLO: 中部TLOは、広域型TLOで特に中部・東海地域の大学・研究機関で生み出された研究成果について、特許による技術移転だけでなく、将来の産業創出に向けた技術育成や研究活動支援活動を進めてい

【主催挨拶・招待講演: 12:30 - 14:40 記念講堂】

- 主催者挨拶 (12:30 - 12:40)
横口 昌彦 氏 (一般社団法人カーボンリサイクルファンド 専務理事)
加美 謙一郎 氏 (公益財団法人名古屋産業科学研究所中部TLO 事業部長)
工藤 昭彦 氏 (東京理科大学 教授 / カーボンリユース研究拠点長)
グリーン水産生成および二酸化炭素資源化のための光触媒開発 (12:40 - 13:20)
工藤 昭彦 氏 (東京理科大学 教授 / カーボンリユース研究拠点長)
ESGマネジメントの潮流と炭素循環技術の社会実装におけるESG評価・認証の適用 (13:20 - 14:00)
Alexander Ryota Keeley 氏 (九州大学工学研究院 准教授 / 株式会社laiESG 取締役兼Chief Researcher)
生物多様性・カーボン事業化への衛星データ活用 (14:00 - 14:40)
百末 泰俊 氏 (株式会社天地人 Chief Operating Officer)

【シヨトPR講演: 14:45 - 15:35 記念講堂】

- アカデミアシーズが地球を救う ~大学発スタートアップの挑戦~ (14:45 - 14:50)
八木 直宏 氏 (京都大学イノベーションキャピタル株式会社 投資第一部長 / 京都大学 成長戦略本部 エコシステム構築領域 副統括)
VC相談 (14:50 - 14:55)
秀念 智文 氏 (株式会社ジェネシア・ベンチャーズ パートナー)
研究開発型スタートアップの創業支援 (14:55 - 15:00)
片岡 幸斗 氏 (インキュベイトファンド株式会社 事業開発アナリスト)
ディープテックと商社が織りなす確率的イノベーション (15:00 - 15:05)
白瀬 賢 氏 (株式会社双日イノベーションテクノロジー研究所 主任研究員)
【広島県】カーボンリサイクル関連技術研究開発への支援について (15:05 - 15:10)
河野 陽 氏 (広島県商工労働局 イノベーション推進チーム 主任)
農業分野における環境負荷低減と収益性・生産性の両立を目指して (15:10 - 15:15)
田村 史朗 氏 (一般社団法人アグリオープンイノベーション機構 アシスタントプロデューサー)
農林水産分野の産学連携推進事業 (15:15 - 15:20)
若佐 研二 氏 (東海地域生物系先端技術研究会 事務局長)
生命科学分野のイノベーションサイクリングへ本学財団の取り組み~ (15:20 - 15:25)
仲間 俊光 氏 (公益財団法人木原記念機張生命科学振興財団 事業企画部)
カーボンリサイクルに係るイノベーションを創出する研究助成活動 (15:25 - 15:30)
塩形 大輔 氏 (一般社団法人カーボンリサイクルファンド グループリーダー)
中部TLOにおける産学連携支援活動 (15:30 - 15:35)
加美 謙一郎 氏 (公益財団法人 名古屋産業科学研究所・中部TLO 事業部長)

【ブース・展示: 12:30 - 17:00 大会議室】

<相談ブース: VC・企業・支援機関>

- 京都iCAP株式会社
シーズ・起業などの相談
ジェネシア・ベンチャーズ株式会社
シーズ・起業などの相談
インキュベイトファンド株式会社
創業前後のプレシード〜シード期を中心とした相談
株式会社双日イノベーション・テクノロジー研究所
シーズ・起業などの相談
広島県商工労働局
広島県における起業や実証試験、助成金などの相談
一般社団法人アグリオープンイノベーション機構
農林水産分野におけるオープンイノベーションなどの相談
特定非営利活動法人 東海地域生物系先端技術研究会
農林水産分野の産学連携推進事業の相談
公益財団法人 木原記念機張生命科学振興財団
生命科学分野におけるオープンイノベーションなどの相談
一般社団法人カーボンリサイクルファンド
研究助成、炭素循環、会員支援などの相談
公益財団法人名古屋産業科学研究所中部TLO
補助金申請、会員支援などの相談
<ブース展示: 大学研究機関>
炭素循環を実現する高収量ナタネ品種の開発
和田 七子 氏 (奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 バイオサイエンス領域 助教)
換気と室内空気環境の可視化: ARによるCO2濃度の3D表現
清川 清 氏 (奈良先端科学技術研究科 情報科学領域 教授)
機能性高分子による直接海洋回収技術(DOC)
村上 遼 氏 (神戸学院大学 薬学部 有機反応化学研究室 助教)
稲垣 冬彦 氏 (神戸学院大学 薬学部 有機反応化学研究室 教授)
有機薄膜太陽電池を用いたスマート農業システムの開発
高澤 康之 氏 (公立静岡薬理科大学 工学部情報電気工学科 環境エネルギー分野 教授)
太陽光を利用するCO2分離・回収・貯蔵・利用技術
今堀 健志 氏 (東京理科大学 工学部 化学工学科 准教授)
<技術製品展示: スタートアップ・企業>
株式会社laiESG
炭素技術のESGマネジメント
日本コークス工業株式会社
持続可能な海のビジネス
マイクロバイオファクトリー株式会社
合成バイオ技術を活用した化学品生産
Planet Savers株式会社
ゼロエミッションを用いた大気中CO2回収(DAC)システム
株式会社天地人
生物多様性・カーボン事業化への衛星データ活用
BioPhenolics株式会社
バイオマス由来のカーボンニュートラル芳香族化学品
プラチナバイオ株式会社
微生物産生ナノクロロプロパシスによるカーボンリサイクル
株式会社イノカ
環境移送技術が切り拓くブルーカーボンの未来
AC Biode株式会社 / 株式会社レパセル
地球の温暖化ガス削減とクロロプロパシスによる問題解決・リサイクル率向上
アート株式会社
CytoWatcher II FL - CO2インキュベータ対応の細胞観察用タイムラプス顕微鏡
株式会社エルメディア / 株式会社ハーツ
アメリカミッドアンプ製による高付加価値な食品リサイクル事業
合同会社アークス / 九州大学 / 広島大学 / 名古屋産業科学研究所
化石燃料を使わないリウソウ栽培技術の開発
特定非営利活動法人 日本火薬協会

チケットを申し込む

新しいフロンティア“火星”  
●株式会社BlueSky  
DACIに適したCO<sub>2</sub>分離回収ハニカム

【出原者の詳細】  
<主催者・招待講演者>



橋口 昌道 氏 (一般財団法人カーボンリサイクルファンド 専務理事)

炭素は全ての生物の構成要素であり、大気中のCO<sub>2</sub>量のバランスを保ちながら、炭素が循環利用されるカーボンリサイクルの概念が極めて重要となります。私たちカーボンリサイクルファンドは、この炭素循環に注目し、研究助成や広報活動等を行うことで、出を支援しています。さらに、CO<sub>2</sub>吸収源のルール化に向けた活動並びに、地域における具体的な社会実装に向けた取り組みも展開しています。



加美 謙一郎 氏 (公益財団法人名古屋産業科学研究所 中部TLO 事業部長)

中部TLOにおける産学連携支援活動、炭素循環・資源化に係る大学・研究機関シーズの社会実装に向けては特許活用だけでなく、研究者、事業者や資金提供者などを巻き込んだ幅広い支援が求められます。技術移転機関としての最近の取組みを紹介します。



工藤 昭彦 氏 (東京理科大学 教授 / カーボンリサイクル研究拠点長)

カーボンニュートラル社会の構築、さらには資源・エネルギー・環境問題の解決には、グリーン水素製造法の確立および二酸化炭素資源化技術の開発が必須です。これらの課題を解決すると期待されている光触媒研究の最前線を紹介し。



Alexander Ryota Keeley 氏 (九州大学工学研究院 准教授 / 株式会社aiESG 取締役兼Chief Researcher)

脱炭素技術の社会実装進展において、サプライチェーン全体のESG (環境、社会、ガバナンス) 評価の重要性が高まっています。国や自治体レベルでの持続可能性指標の発展に加え、企業活動のESG指標による評価が注目されていますが、製品・サービスレベルのハードロー化にも対応する必要がある中でどのようなソリューションがあるのかについて紹介します。



百束 泰俊 氏 (株式会社天地人 Chief Operating Officer)

近年欧州を中心に「気候変動と自然資本は不可分」であり、共に対策すべき機運が高まっています。日本でもTNFD早期開示で80社もの表明があったように、世界に先駆けた取り組みが進んでいます。本講演では、宇宙ビッグデータをはじめ様々なデータ気候変動や自然資本を含む環境課題への応用可能性をお伝えします。

<ショートPR講演者>



八木 健史 氏 (京都大学イノベーションキャピタル株式会社 投資第一部長 / 京都大学 成長戦略本部 エコシステム構築領域 副統括)

京都大学グループは、アカデミア発スタートアップの設立支援と投資を行っています。日本初の核融合ベンチャーである京都フュージョンリアリングやペロブスカイト型太陽電池の開発を行うエネコートテクノロジーズなど脱炭素領域での豊富な実績を有している軽院や特許ポートフォリオ構築を、研究助成ならびに会社設立後の事業資金の提供を行います。



河合 研文 氏 (株式会社ジェネシア・ベンチャーズ パートナー)

ジェネシア・ベンチャーズは、創業間もないスタートアップに投資を行う独立系VCで、日本市場のほか、東南アジア・インドに拠点をもち海外市場でも投資活動を行っています。ここ数年は大学発を含むディープテック系スタートアップへの投資も積極化して



片岡 宏斗 氏 (インキュベイトファンド株式会社 事業開発アナリスト)

インキュベイトファンドは、創業前後のプレシード〜シード期に特化したベンチャーキャピタルです。会社設立前から創業者・研究者と伴走し、シーズの社会実装に向けた支援をさせていただいております。当社として取り組んでいる大学支援機関との連携内にてご紹介いたします。



白瀧 賢 氏 (株式会社双日イノベーションテクノロジー研究所 主任研究員)

株式会社双日イノベーション・テクノロジー研究所は、総合商社の双日株式会社発の技術研究所であり、技術シーズを研究者とともに育て、社会実装する活動を行っています。当社は、様々な技術領域/産業領域で活躍してきた博士人材を中心に構成された組織であることが特徴です。本講演では、具体案件とともに、技術シーズの社会実装における当社の役割について紹介します。



河野 賢 氏 (広島県 商工労働局 イノベーション推進チーム 主任)

広島県は、国のカーボンリサイクル実証研究拠点を有する国内唯一の自治体として、カーボンリサイクル技術の開発支援や社会実装に積極的に取り組んでいます。その取り組みの一環として、カーボンリサイクル関連技術の研究・実証に意欲の高い大学や企業と、その内容についてご紹介させていただきます！



田村 史朗 氏 (一般財団法人アグリオープンイノベーション機構 アシスタントプロデューサー)

アグリオープンイノベーション機構では、農林畜産におけるオープンイノベーションのプラットフォームであるAOIフォーラム運営 (R6.2.29現在で350会員) し、各種セミナー開催、会員同士の交流会等を行っています。また、フォーラムの会員には、100名以上の方々に会員となつていただき、オープンイノベーションの輪を広げ、新たな成果に繋げていきます。



岩佐 精二氏 (特定非営利活動法人 東海地域生物系先端技術研究会 事務局長)

東海生研では農林水産省-JATAFFの支援を得てコンソーシアムの一員として東海エリアで、主に農林水産分野における産学連携推進事業を推進している。具体的には、コーディネータ活動として、ニーズ・シーズの収集・提供、産学連携等のためのマッチングの支援、セミナーの開催(3回のセミナー/年をハイブリッド形式)、技術交流展示会の開催などを実施している。



仲間 隆光氏 (公益財団法人木原記念機済生命科学振興財団企画部)

本財団は生命科学(ライフサイエンス)分野の研究と産業の振興を支援する非営利組織です。

医師が専攻を予防・治療するよう、生命科学が地球の医師となって機能するよう、その未来を担うサイエンティストたちの研究を、未来を変えるスタートアップたちの事業を、多方面からサポートします。炭素循環の研究・事業が地球の医師として機能できまををご紹介します。



塩形 大輔氏 (一般社団法人カーボンリサイクルファンド グループリーダー)

炭素は全ての生物の構成要素であり、大気中のCO<sub>2</sub>量のバランスを保ちながら、炭素が循環利用されるカーボンリサイクルの概念が極めて重要となります。私たちカーボンリサイクルファンドは、この炭素循環に注目し、研究助成や広報活動等を行うことで、出を支援しています。さらに、CO<sub>2</sub>吸収源のルーラー化に向けた活動並びに、地域における具体的な社会実装に向けた取り組みも展開しています。

本講演では、私たちの活動とともに、現在募集中の研究助成ファンドの詳細についてご紹介します。皆様には、ぜひご参加いただき、循環炭素社会の実現に向けた取り組みを共に進めていただければ幸いです。

<ポスター・シーズ・技術・製品展示>



奈良先端科学技術大学院大学

・和田 七夕子氏 (先端科学技術研究科 バイオサイエンス領域 助教)

バイオディーゼルの原料となるナタネ油は、世界生産量約3千万トン、市場規模約6兆円ですが、現在その生産は、限られた種(セイヨウナタネ)のみが担っています。私達は、油胞生産に用いられていないアブラナ科植物(在来ナタネ)に特定の核酸を挿入しました。同時に、種子の大型化技術も実現しており、これらの技術の育種への応用を検討しています。

・清川 清氏 (先端科学技術研究科 情報科学領域 教授)

ARグラスをかけることで本来は見えないCO<sub>2</sub>濃度の状態や変化が三次元的に見えるシステムを開発しました。空気が澄みやすい時間や場所が直感的に分かるため、適切なタイミングで換気したり、机やエアコンなどの家具の配置を検討したりする助けになります。設置型センサだけでなく、センサをつけた移動ロボットが自由に室内を移動してCO<sub>2</sub>濃度を計測します。



神戸学院大学

・村上 遼氏 (薬学部 有機反応化学研究室 助教)

・堀尾 名彦氏 (薬学部 有機反応化学研究室 教授)

海洋は大気中のCO<sub>2</sub>を陸よりも多く吸収していることもあり、地球の7割を占める海洋を利用したCO<sub>2</sub>回収技術が注目を浴びています。さらに海洋生物の多様性ならびに海洋酸性化の防止にも繋がることからネイチャーポジティブとしても期待できます。この用することで、海洋中のCO<sub>2</sub>を吸収できる機能性高分子を開発することに成功しました。



公立諏訪東京理科大学

・渡邊 謙之氏 (工学部 機械電気工学科 環境エネルギー分野 教授)

次世代太陽電池のひとつである有機薄膜太陽電池は、軽量、フレキシブル、光透過性に加えて、あらゆる色味を持たせさせる事が可能なため、デザイン性のある活用が期待されています。本研究室では、これらの特徴を活かし、農作物栽培に必要な光を透過し、その開発を行っています。また、本技術を基盤とした窓発電等のBIPV(建材一体型太陽光発電)や数種等の水産分野さらには宇宙開発ビジネス分野への展開も検討しています。

東京理科大学

・今堀 龍志氏 (工学部 化学工学科 准教授)

太陽光をエネルギーに用いた低エネルギー消費のCO<sub>2</sub>分離・貯蔵・供給技術、分離回収CO<sub>2</sub>の太陽光による低エネルギーCO<sub>2</sub>炭素資源化技術について紹介します。



aiESG



株式会社aiESG

・市尾 正人氏 (Principal Researcher)

株式会社aiESGは、炭素循環技術による持続可能な社会の実現への独自のアプローチを紹介します。ESG指標を用いた現状把握から、調達先や原材料の見直しによる炭素削減、生成AIによる統合報告書スコーピング、サプライチェーン分析に至るまで、企業の存続の明確化とリスク評価により、オープンイノベーションを促進し、炭素循環社会実現を目指します。



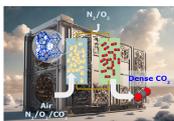
日本コークス工業株式会社

多様な副産物を利用して地元の海に貢献することを目標に、沿岸部工場・地元水産業の両者ともにメリットのあるアイデアを提案します。具体的には、工場副産物であるCO<sub>2</sub>やバイオマス灰等を用いてコンクリートブロック製造して海藻の苗を植え、リン等含有を創生するとともに、海藻をバイオマス発電や食料・飼料として活用します。



マイクロバイオファクトリー株式会社

微生物の遺伝子を改造して有用物質を作り出す合成バイオ技術は、脱炭素社会の実現に向けて期待されている技術です。従来、化石資源から製造される化学品を遺伝子改造した微生物を使うことで、再生可能なバイオマス資源から生産することを目指します。



Planet Savers株式会社

Planet Savers株式会社は、二酸化炭素を大気から直接回収するDirect Air Capture(DAC)技術の開発に取り組み東京大学のスタートアップです。現在非常に高いCO<sub>2</sub>回収コストがDAC普及のボトルネックとなっていますが、当社はゼロライต์ベースの突破することで、大幅なコスト削減を実現します。本展示では、当社が開発するDACシステムの概要をご紹介します。



株式会社天地人

近年政府を中心に「気候変動と自然資本は不可分」であり、共に対策すべき機運が高まってきています。日本でもTNFD早期開示で80社もの表明があったように、世界に先駆けた取り組みが進んでいます。本講演では、宇宙ビッグデータをはじめと様々なデータ気候変動や自然資本を含む環境課題への応用可能性をお伝えします。

## BioPhenolics株式会社

当社は改良型微生物（スマートセル）を用いた発酵プロセスによってカーボンニュートラルなバイオ芳香族化学品生産の研究開発を行っています。バイオ化学品はバイオマス（植物）を原料としているため、石油に頼る必要が無く、かつCO<sub>2</sub>を固定化したもの統合的に進めており、バイオ化学品の大量生産=CO<sub>2</sub>削減の実現に向けて取り組んでおります。



## ブラチナバイオ株式会社

・小野 浩雅 氏 (事業推進部 ディレクター)

微細藻類を用いたカーボンリサイクルのモデルケースとして、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収して有用な物質を生成する性質をもつ微細藻類ナノクロロプシスを屋外で大量培養することを見据え、遺伝子発現解析を駆使してラボスケールでの最適な培養条件の検討



## 株式会社イノカ

・竹内 四季 氏 (取締役COO)

イノカは「自分たちが好きな自然をみつづける」をフィロソフィーに掲げ、国内有数のサング飼育技術を持つアクアリスト（水棲生物の飼育者）と、東京大学でAI研究を行っていたエンジニアがタッグを組み、2019年に創業したベンチャー企業です。「人類の選択肢を増やし、人も自然も栄える世界をつくる」をミッションに掲げ、自然を愛し、好奇心に基づいて飼育研究を行う人々のかと、IoT・AI技術を組み合わせることで、任意の生態系を水槽内に再現する「環境移送技術®」の研究開発を推進している(上画像はイノカの再現したサング礁生態系)。



## AC Biode株式会社 / 株式会社レゼル

AC Biodeは、化学、材料科学、電子工学をベースにしたクリーンテックのスタートアップです。「地球の温暖化ガス削減とグローバルなごみ問題解決・リサイクル率向上に貢献する」をミッションに掲げ、廃ラや有機廃棄物の解重合触媒、交流電池、吸着エネシアベンチラス等から資金調達し、日本、ルクセンブルク、英国に拠点を設けています。レゼル社と共同でCO<sub>2</sub>を空気中から吸着、固形化ガラスやコンクリートにリサイクルする事業を進めています。



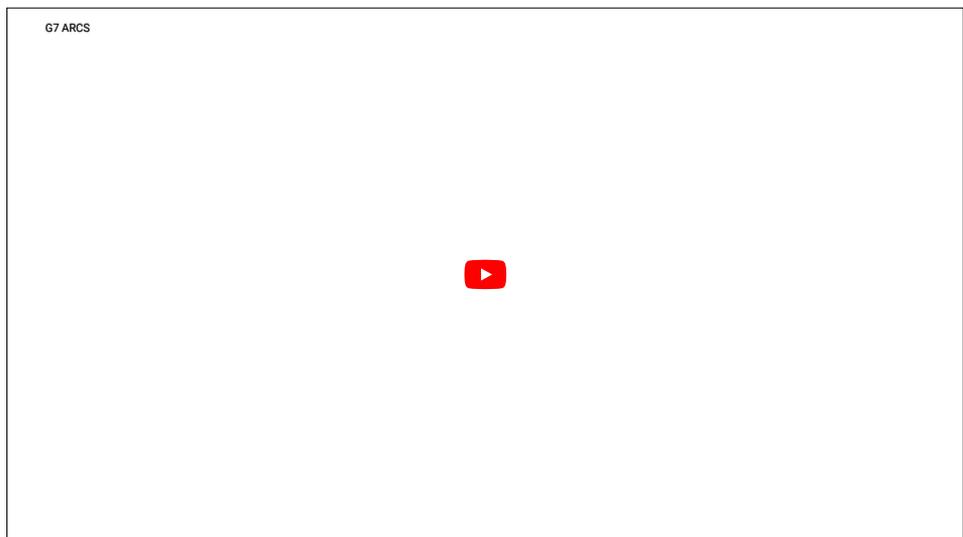
## アトー株式会社

CytoWatcher IIおよびCytoWatcher II FLは、CO<sub>2</sub>インキュベータ内で使用できる低コストなタイムラプス顕微鏡です。省電力かつ省スペースを実現した設計で、明視野および蛍光の両方で培養細胞や組織を長期間にわたり撮影可能です。生物のCO<sub>2</sub>応答



## 株式会社エルメティア / 株式会社ハーツ

アメリカミズアップを利用した高いタンパク質変換効率を活かし、食品廃棄物から高付加価値製品を生み出す新しいリサイクル事業を展開します。現在は1日あたり200kgの食品廃棄物を処理することが可能ですが、さらなる規模拡大を目指して開発を進めている製品を展示します。持続可能な資源循環型事業にご興味のある方は、ぜひ弊社のブースにお立ち寄りください！





特定非営利活動法人 日本火星協会

わたしたちは、新しいフロンティア“火星”を目指しています。その活動が経済や科学技術の発展につながるかと考えています。宇宙へ生活圏を広げることで、炭素循環を含む資源循環に関する新技術、新しい文化・芸術・スポーツが生まれることでしょう。こちら派遣、火星模擬基地の調査、火星学校の動画制作・配信、火星料理レシピコンペの企画、各種火星イベント等を行っています。



株式会社BlueSky

当社は、人類が生み出した最も大きな課題である環境問題に対して、環境浄化技術をはじめとした技術を用い、地球環境の課題に取り組むスタートアップ企業です。セラミックを基材とした特殊な複合ハニカムの製造を得意としており、無機系材料のCO2吸着カラムは大気中からのCO2回収に適しており、DACの実用化に向けて研究開発を進めています。

(イベント参加における注意事項)

- ・当日、咳、発熱等の症状がある方は、ご来場しないようお願いいたします。
- ・運営スタッフがイベントを開催し、各種媒体で掲載・配信される可能性があります。
- ・配信への映り込みにあらかじめご了承ください(映り込みが問題の場合、会場担当者に申し出てください)。

主催者  
 公益財団法人 名古屋産業科学研究所 中野TLO  
 フォロー数: 151

参加者 100



関連イベント

5月 10	金曜日 20:00 オンライン Insight #14 働き方を変えよう！ 〜働き方を変えて、 時代がきた！?〜 主催: Insight	6月 4	火曜日 10:45 会場: 名古屋産業科学研究所 (料金150万円/前期200万円以上1.5分前) ドット絵描き講座 2/3 AI / Web3.0 & 女性起業家特化スタートアップブッチイ イベント 主催: 株式会社スリム	5月 9	木曜日 19:00 会場: quantum 東区橋本4丁目3-1 1階2F/23F 新技術の創出の誘惑と克服を上げる、生 産AI活用の可能性 by quantum academy. 主催: quantum	5月 13	
----------	---	---------	--	---------	--	----------	--

[ベンチャー/スタートアップ](#)
[スタートアップ](#)
[イノベーション](#)
[サステナブル](#)
[テクノロジー](#)
[創業](#)

[特集] トレンドを学ぶ、自分を磨く。ビジネスセミナー・イベント情報 >